

【症例報告】

IgG4 陽性 Sclerosing angiomatoid nodular transformation (SANT) の1切除例

なか 中	むら 村	こう 光	すけ ¹⁾ 佑 ¹⁾	あら 荒	かわ 川	まさ 将	し ¹⁾ 司 ¹⁾	きし 岸	たかし ¹⁾ 隆 ¹⁾
まつ 松	ばら 原	たけし ¹⁾ 毅 ¹⁾	やま 山	もと 本	てつ ¹⁾ 徹 ¹⁾	にい 新	の 野	だい 大	すけ ²⁾ 介 ²⁾
ひ 日	だか 高	まさ 匡	あき ¹⁾ 章 ¹⁾						

キーワード：Sclerosing angiomatoid nodular transformation (SANT)，脾腫瘍，
IgG4 陽性形質細胞，腹腔鏡下脾臓摘出術

要 旨

Sclerosing angiomatoid nodular transformation (SANT) は Martel らが2004年に提唱した脾臓特異的な非腫瘍性血管病変の稀少な疾患で，腹腔鏡下脾臓摘出術による切除例を経験した。

症例は40代男性。健診の腹部超音波検査で脾臓に低エコー腫瘤を認め，当院紹介。造影CTで脾臓に45×47mmの辺縁からの漸増性造影効果，車軸状構造を伴い，SANTが疑われた。患者希望で経過観察となり，6ヶ月後増大傾向あり。さらに6ヶ月後に左側腹部の違和感が出現し，悪性疾患や破裂の懸念あったため，腹腔鏡下脾臓摘出術を行った。術後脾液漏，脾静脈血栓症を生じたが，経過良好で術後8日目に退院とした。病理でIgG4陽性形質細胞を伴うSANTと診断された。増大傾向の際，腹腔鏡下脾臓摘出術は低侵襲かつ診断に有用であるが，術前診断可能な場合，経過観察の選択肢もあることを念頭に置く必要がある。

は じ め に

Sclerosing angiomatoid nodular transformation (以下，SANT) は脾臓に発生する比較的稀

な血管病変で，2004年に Martel らによって初めて報告された比較的新しい概念である¹⁾。ほとんどが無症候性で，検診を契機に偶然発見されるものが多い。近年 SANT の症例報告の蓄積により，その画像的特徴や病理学的所見が概ね捉えられてきているが，その発生原因等は不明であり，他の悪性疾患との鑑別が困難であることが多いため，診断目的に通常脾臓摘出術が行われることが多い。

Kosuke NAKAMURA et al.

1) 島根大学医学部消化器総合外科

2) 島根大学医学部病態病理学講座

連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89番地1

島根大学医学部 消化器総合外科